

第6回（令和4年度第3回）府中市生涯学習審議会会議録

1 日 時 令和4年10月7日（金）午前10時～11時半

2 場 所 府中駅北第2庁舎3階会議室

3 出席者（敬称略）

(1) 委員9名

榎本成子委員、大谷久知委員、佐野洋委員、田頭隆徳委員、立石朝美委員、
中村洋子委員、長畑誠委員、松浦浩司委員、福田豊委員、
※岩久保早苗委員、木内直美委員、島田文江委員、内藤大輔委員、
松木博子委員、藤原美江委員欠席

(2) 職員6名

佐藤文化スポーツ部長、鈴木文化生涯学習課長、楠本文化生涯学習課長補佐、
武居生涯学習係長、竹川事務職員、山本事務職員

4 報告事項

(1) 配布資料の確認

- ア 資料1 第5回府中市生涯学習審議会会議録（案）
- イ 資料2 第5回府中市生涯学習審議会での府中市生涯学習センターに
対する意見まとめ
- ウ 資料3 答申までのスケジュール
- エ 資料4 第6回府中市生涯学習審議会審議について
- オ 資料5 生涯学習センター相談窓口

(2) 前回議事録の確認

各委員に校正を依頼した前回議事録（案）について、市民に公開することが
了承された。

5 審議事項

(1) 「学び返し」を進めるための地域人材の活用について

会長： 今期の前半は、府中市が会場となり実行委員長を務めた関東甲信
越静社会教育委員連絡協議会東京大会などもあり、スタートが遅れ
てしまった。本日までに審議いただいた内容を基に答申の土台とな
るものを作成し、次回12月16日に、それについての追加や、手
直しの検討をして、答申を作成していきたい。本日の審議の進め方
については資料2をご覧ください。前回は、中教審の答申を共

有し、その中の「人づくり」、「つながりづくり」、「地域づくり」を念頭に置きながら、生涯学習の中心である。府中市生涯学習センターについて、様々な意見をいただいた。それをまとめたものが、資料2である。その中の④と⑤はどちらかというと施設のハード面の話になる。そのため、それ以外の点について、より深めて審議をしたいと思う。

委員： ハードやソフトの話ではなくて、中身をもっと充実してほしいと思う。中身が充実していれば、市民の満足度は8割くらい充足される。そこをPDCAで回していくというところが数年前から続いていると思うが、そういった点の問題意識やニーズはどうなっているのか。そこを飛ばして答申を出してもあまり有効なものにならないと思う。

会長： 懸念されている点は、本日皆さんと審議する内容にも関わるところだと思うので、そこでも是非発言していただきたい。そのうえで申しあげると、今回の諮問事項は「地域人材の活用」に繋がることを「学び返し」も考えながら、という事なので、生涯学習センターでこういう講座があればいいという話ではない。それは本来、生涯学習センターとしてやっていくべきことである。機能についての話はできるが、今回の諮問事項である「地域人材の活用」や「学び返し」に繋がることであれば意見をいただきたい。ただ、今の話のように、講座そのものに満足していないというのは問題であると思うので、それをどのように改善するかという点についてもご意見をいただければと思う。

委員： そういう話ではなく、そもそもの話をしていく必要がある。例えば、地域としてどのような課題があるか、それに対応して生涯学習としてどのようなプログラムを市民に提供するのがあり、それに沿って具体的講座を設定するという事だと思う。具体的講座を設定するというのは地域の課題に基づいて、ニーズからくるものであるためそのニーズが何かという把握とどう対処したらいいかという事を審議するのが審議会の目的であると思う。そのため、単に何をやりたいかを思い付きで発言するのではなく、PDCAサイクルを回

していくというアプローチをするべきだと思う。

会長： その通りだと思うので、本日の審議の中で、どのように地域の課題を掘り起こしていくか、その解決に繋がる人材をどう育成していくというのを話していければと思う。

委員： それは、今回新たに出すのでは無くて、前回まででPDCAで回しているのであれば、それがまとまっているものがあるはずなので、生涯学習として課題は何があり、それがどこまで解決できているのかというまとまったものが無いと審議の全貌がつかめない。

会長： 第9期の審議会ではその点について、審議をし、提言をすでに行っている。ただ、具体的な「地域人材の活用」といった点については、議論ができていない。そのため、その部分について、審議をしたいと考えている。

委員： それは、新たに課題を出すという事か、積み残しでこの課題が残っているからどうするかというのを話すのが、普通の議論の進め方だと思う。

会長： 具体的課題について、これがあるからこうしていくという話は、この場ではしない。例として、地域の高齢化や空き家などを出していただくのは構わないが、今府中市が抱えている地域課題はこれで、その中のこれが出ていないからこれをしなさいということをするのはこの審議会ではない。

委員： 中身が分かっていないと総論的なものも進まないのではないかと、どこに重点を置くのかというのが必要ではないか。

会長： その点についてお示しさせていただく。地域課題の解決につながる人材育成が必要であるとなったのが今期の審議会というところ何か月間の話であるため、そこからもう一回どんな課題があるかという審議をすることはできない。そのため、委員の中で持っている経験と知識の中で、話していければいいと思っている。こういう課題

があるからこうしなさいというよりは、地域の中では見えていない課題も多いと思うので、どう掘り起こしていったらいいかといった点について審議していきたいと考えている。

委員： 学び返しの人材をどう掘り起こし、開拓していくか議論をしてきた中で、急に生涯学習センターについても議論をすることになり、当惑したのが背景にあると思う。そのため、今の話のような問題意識が出てきたのではないかと思う。私もその点について議論させていただいて、今回資料2にまとめられているとおり、位置づけとして、地域の課題解決のための中心施設として位置付けるというポイントがあると指摘させていただいた。この点を今後議論していくのであれば、今の話に出ていた問題意識と重なるので、審議の中に入れていただければいいと思う。

会長： 正副会長と事務局で話し合い、今回の審議の進め方についてまとめたものを資料4として配布している。（1）がまさに今話に出ていた府中市の地域がそれぞれ抱えている困りごとや課題について解決に繋がるような人材を掘り起こしたり、育成したりするために生涯学習センターはどういった役割ができるかという話である。その際には今までも話に出ていた市内の他の施設との連携も考えていく必要がある。また、中教審の答申を考慮すると、課題解決というのは、今見えている課題について解決しようというだけでなく、これから様々な課題が出てくる中で、地域そのものに課題や困りごとが起きたときに地域の中で解決できる力を付けていく必要があるというものである。この課題があるから解決できる人材を見つけようというのが一番理想的だが、生涯学習ができる事というのは、学びの場を作るという事である。それは歴史や文化や音楽やスポーツなど、どんなテーマでもかまないが、そこに学びがあり、それによって、人が集まってきてそこで学び合うとやっていく中で、人のつながりが生まれていき、学びのコミュニティが出来れば、そこからいずれ問題が起きたときには、その人たちが動き出すのではないかとこの考え方が中教審の答申の中にある。そこが（2）の部分で、一見すると、課題解決に繋がっていないようでも、地域に色々な学びのコミュニティができていくような仕掛けなどを担っていく必要

が生涯学習センターにはあるのではないかと考えている。そのため、（１）と（２）の論点について、前半はこの論点をより深めたいため、２つのグループに分かれて、それぞれで審議いただきたいと考えている。後半はその各グループの審議内容を全体で共有していく。グループはこちらで考えさせていただいた。（１）は副会長、（２）は私が入り、進めさせていただく。

各グループでの審議

会長： グループでのご審議ありがとうございました。それでは、各グループでどのような話し合いが行われたのかを全体で共有したいと思う。まず（１）について、副会長から説明をしていただきたい。

副会長： 地域の課題解決に繋がるための人材という事でポイントは２つ。生涯学習センターの実施講座等に従来から議論されているようにコミュニティスキルをもった人材を育成する講座を充実させる。そのため生涯学習センターの講座編成等の会議の中で、市民が一步踏み込んだ形で提言できるようにしてほしい。実質的にコミュニティスキルを持った人材の育成をすることによって、地域の課題解決の人材育成に繋がっていくと考えた。もう一つは、生涯学習センターの役割を地域の課題解決に対応させるように機能させるべきである。これまで生涯学習センターの活動結果を評価する提案は出ていたが、加えて企画の段階で市民会議のようなメンバーを募って企画段階からコミットするようにすべきである。PDCAサイクルのPのところから市民の声を反映させ、さらにCの所にも反映させるような役割を付加して、生涯学習センターを機能させていくという提案があった。他にも意見は出たがポイントとしては、この２点である。

会長： それでは、（２）のグループから質問などがあれば発言していただきたい。なければ私の方から少しお聞きしたい。コミュニティスキルに焦点を当てて、地域人材を育成し、地域の課題解決につなげていくという話だったが、生涯学習センターは一つしかなく、地域は多数ある。その中で、生涯学習センターで育成した人が地域の戻

った時に果たして活動できるのか、という点を疑問に感じたが、いかがだろうか。

委員：　そこまで考えられるのが理想的だが、生涯学習センターの機能や役割として、そこまでするのは難しいのではないか。

委員：　生涯学習センターが、地域の文化センターとの連携をしっかりと取り、さらにプラッツや社会福祉協議会との連携を上から広げていき、今度は文化センターで学んだ人が、地域に返すという形にしていけば、もっと人材が広がっていく。そのため、まずは生涯学習センターの位置づけを頭にして、それから文化センター、地域という順番で広がっていくと、人材育成に繋がっていくのではないかという話も出ていたが、先ほどの発言にもあったようにそこまでするのは難しいのではとなった。

委員：　今の発言に付け加えさせていただくと、市民企画会議のようなものを運営主体につけるという時に、市民企画会議のメンバーが肝心で、話があったように文化センターやそのほかの施設の主要メンバーを入れておくと、そこから自律的に広がっていくというイメージの話であった。

会長：　最初からすべてを決めていくのではなく、まずやってみてそこに市民の方や地域の方が入ってくれば、広がっていくという事で理解できた。

委員：　地域を町内単位かそれよりももっと広い範囲で捉えるかという
と、個人的には近隣と府中市というイメージしか湧かない。自治会で行っているものと、生涯学習はあまり結び付かない。そのため、ピラミッド型というのはイメージができない。生涯学習センターと並列的、むしろ区分けして、生涯学習センターでやるのは市全体でカバーするが、個別の文化センターは地域が主体になるというような並列して、テーマによって生涯学習センターに行ったり、文化センターに行ったりするため、上下の関係ではなく並列な関係になるのが良いと思う。

会長： その点について、皆さん同じ考えを持っていると思う。ただ、コミュニティスキルというまさに地域の課題に対応できるような人材を育成していこうというのは、市全体の課題であるため生涯学習センターで行う。しかし、実際に問題が起きているのは地域であるため、問題が起きている地域の方が市の反対側の地域の人に助けてもらうというのは難しいので、同じ地域の中で助け合いのようなものが生まれていき、最終的には地域で活動できるようになるのが理想という話である。

委員： 市内のその地域で問題が発生していれば、他の地域でも同じような問題が発生していることが多いと思う。その地区特有のニーズもあるかもしれないが、あまりイメージが湧いてこない。

会長： 問題解決をするために学習することなので、それも生涯学習である。他の地域でも同じような問題が発生しているという場合には、生涯学習センターが中心となってやるという事はできると思う。そのため、生涯学習センターの機能は絶対必要である。ただ、実際に問題解決という話になってくると、地域の特性もあるし、人も考え方も全然違うから、それぞれの地域の中で出来ていくと良いという話である。生涯学習センターがそこまでの面倒を見ることができるかという点はあるが、話していくと広がりのあるテーマかと思う。

続いて、（２）のグループは地域のさまざまな「学び」のコミュニティの育成につながる人材というテーマで審議した。その中で、生涯学習センターは基本的には、市全体の事を担うべきではないかという事になった。相談機能については何か新しいことを学びたいとか、こういう活動をしたいという人々がいたとしてもどこに行けばそれができるか分からないという人は必ずいる。そのため、生涯学習センターに直接来ても、生涯学習センター側に団体やサポーターなどの学びの場のデータベースが無いので、こういう団体があって、こういう場所があるという事を紹介できることが求められる。それに派生して、それぞれの団体やサポーターの広報の手伝いもできるのではという話になった。もう一つは、学びたいことややりた

いことはあるけど、講座やサークルが無いという話である。そうした時に生涯学習センターとしてできるのは、新しい講座を開講することである。ただ、その講座は無から生まれるわけではないため、市の中でどんなニーズがあるのかをしっかりと調査して立ち上げていくことが求められる。また、生涯学習センターには、陶芸窯などの設備があるので、そういったものも活用していくことが必要で、それを起爆剤として、人が集まってきたら新たなグループが生まれていくというようなことまで考えておくべきという話があった。すでにあるものについて、様々な人たちがもっとそこに情報を知って集うことができるような機能と、講座やテーマが無いものについては、新たに講座を立ち上げてそれをきっかけにして、人々の学習の場を作っていくことが求められるという2点が大きなポイントとして出た。それから、生涯学習センターや文化センター以外にも学びの場所はたくさんあるので、その場所の紹介もやっていくことができるのではないかという話もあった。

委員： 最初のポイントでは、データベースが要点になると思うが、そのデータベースというのはどのように構築されていくものなのか。この時間でそこまでの議論はできなかったと思うが、このデータベースの質でこの話は大きく左右されると思う。

委員： あまり新しい事がない印象を受けた。ここで、言われているのは、学びのコミュニティの育成に繋がる人材でその人の役割は繋ぐという作業が重要なワードという印象を持っている。その時に、学びのコミュニティの育成というのはとても難しいものであるが、それをどうしていくのか、課題解決に直接関係なくてもいいという事でこのテーマで話し合ったと思うが、この繋ぐという点について、もっと掘り起こしが必要ではないかと感じた。

会長： 相談という機能の中に、すでにこういうサークル、講座、講師がいるというのがあって、相談に来たときに、そこを繋げるというのが一つと、新しい講座をたちあげ、そこに参加した人たちがその後活動できるように繋ぐというもの一つあると思う。

委員： 府中市には、プラッツや社会福祉協議会があるため、そことどう
区別していくか、活動したいと思っていて、何か課題を抱えている
という市民の心に響くような差別化のキーワードを生涯学習センタ
ーで見つけていくというのが重要ではないか。

委員： （１）と（２）は重なっていく話ではあるが、（１）の方に偏り
すぎると、プラッツは市民活動という視点で、それを行っている
し、社会福祉協議会は福祉の観点から長い間活動をしている。その
中に（２）が入ってくるのではないかと考えており、直接的に自分
の困りごとの解決のために何とかしたいという事ではなくて、もっ
と緩い形でも良いからなにか新しい事を学びたいという人が、分野
は何でもいいが、それをきっかけに仲間ができるというのが、生涯
学習の強みではないかと考えている。

委員： 地域の問題ばかりではなく、学習・学びという点においては、楽
しい事や興味のあることをやりたいというのが自然なことなので、
それが、広がっていくのも重要であると感じた。

会長： そういった意味で、生涯学習センターとして、掘り起こしなどが
出来ればいいという事である。本日の審議について、正副会長及び
事務局で文章化したものを次回委員のみなさんと確認できればと思
う。

6 その他

次回の審議会の開催時期について、令和４年１２月１６日（金）の午前１０時か
ら府中駅北第２庁舎３階会議室にて開催することで、了承を得た。